

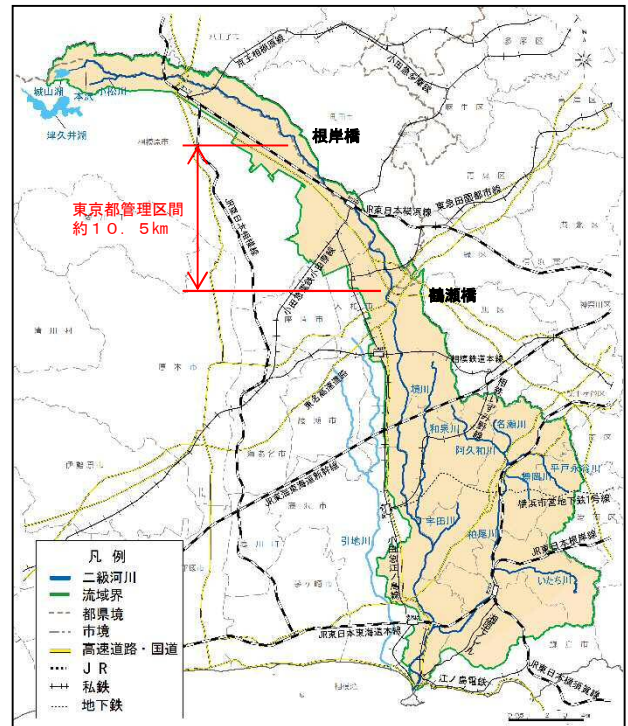
境川水系とは？

境川水系とは、境川と、その支川である柏尾川等に雨が流れ込む約211km²の範囲をいいます。

境川は、神奈川県相模原市緑区の城山湖付近を水源とし、東京都町田市、神奈川県相模原市、大和市、横浜市、藤沢市を流下して相模湾に注ぐ、延長約52kmの河川です。うち東京都が管理する区間は、鶴瀬橋上流～根岸橋までの約10.5kmです。



境川の河道の状況（幸延寺橋付近）



水系の特徴

境川水系は、昭和30年代から40年代初めにかけて急速に市街化が進み、水田の宅地化などの影響で浸水被害が頻繁に生じていました。これに対処するため都では、河川の整備を進め、護岸整備は9割以上完了しています。

近年では、平成20年8月の8月末豪雨により町田市内で浸水被害が発生するなど、整備の必要な箇所が残されています。

境川は、川面に降り、川に沿って散策できるなど、親水性の高い川です。



改修前の境川（昭和50年）



管理用通路の整備状況（根岸橋下流付近）

河川整備の目標

境川水系では、洪水に対する安全性を向上させると共に、生態系に配慮した川づくりや、水辺に親しめる川づくりを進めていきます。

計画対象区間と期間

本計画は、神奈川県・横浜市との共同策定であり、計画対象区間のうち、東京都管理区間は約10.5km（鶴瀬橋上流～根岸橋）です。河川の整備から維持管理に関することも含まれます。

計画対象期間は、おおむね30年間としますが、川をとりまく状況の変化や社会状況の変化に応じて見直しを行います。

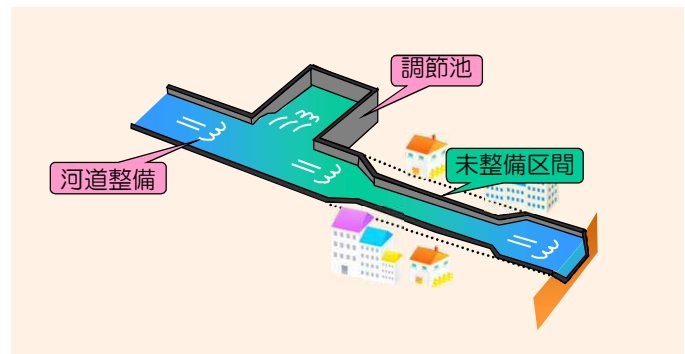
河川の整備（東京都管理区間）

治水・・・洪水による水害の防止又は軽減

東京都管理区間では、下流の改修状況を踏まえ、河道整備に先行して年超過確率 1/20（1時間あたり概ね65mm）にも対応する調節池を整備し、早期の治水安全度向上を図ります。神奈川県、横浜市を含めた境川全体では、年超過確率1/10（1時間あたり約60mm）の降雨により発生する洪水を安全に流すことのできる河川の整備を進めます。



改修後の境川



境川における調節池の整備イメージ

環境・・・河川環境の保全、創出、再生

河川整備にあたっては、治水対策との調和を図りながら、多自然川づくりを基本に、川に生息する多様な生き物に配慮し、自然環境の保全・回復に努めます。

また、周辺の自然環境や河川利用の状況に合わせ、親水施設の整備や管理用通路の緑化等、景観に配慮した整備に努めます。



境川の親水整備（鶴間一号橋付近）



緑化のイメージ